

今回の事例からみてきたこと

今回の事例から、地域住民に施設・事業所、利用者のことを知ってもらうことが何よりも大事であることを実感しました。知ってもらうきっかけとして行うイベントや地域交流活動が地域貢献にもつながっています。今回取材を行った2施設においても最初から上手いといったわけではありませんでした。しかし、焦らずゆっくりと徐々に関係性を構築していくことで、地域住民と距離が近くなり、地域の中での施設・事業所の認知度や信頼性の向上に繋がっています。

地域からの雇用

実際に地域交流活動に参加し、利用者や職員との関係性を見て働きたいと思ひ、職員として働いている方もいます。施設・事業所を知ってもらい関係性ができているからこそ、その施設で働いてみたいという気持ちへと繋がっているのだと思います。また、保育園や小学生等幼少期の頃に関わった子どもが福祉の仕事や関わった施設へ興味を持ち、施設見学や職場体験につながっていることもわかりました。このことは、今後、地域交流活動を通じて将来の福祉人材の雇用として中長期的な人材確保へと繋がっていくことが期待できるのではないかと考えます。

今後少子高齢化が進み、介護ニーズがさらに高まっていく中で、多世代・未経験者といった専門職以外の裾野を広げた人材確保がますます必要となります。地域からの雇用へつなげるためには、地域にとって開けた施設となり、信頼関係を築くことが必要です。そのため、これからも施設・事業所を知ってもらい、関係性を構築していくための地域に開いた法人、施設運営が求められます。

テーマ

福祉施設・事業所と地域とのつながりを通じた福祉人材確保

はじめに

人口減少に歯止めがかからない高知県では、少子高齢化等による労働力人口が減少するなか、全産業において人材不足が続いている状況です。特に福祉・介護分野では、高齢化がさらに進むことによる介護ニーズの高まりから、これまで以上に介護人材の確保が深刻化しています。そのため、資格所有者等の専門人材の確保と併せて、日頃から将来の働き手の裾野を広げることを視野に、多世代・未経験者も含めた地域人材育成に取り組む必要があります。

そこで、今回は施設・事業所が地域の社会資源としての役割を果たすことを通じ、将来的な人材確保に繋げるための取組を考えます。地域の方々に日頃から多様に参画いただくためには、サービスの質向上を通じた認知度、信頼度の向上やイメージアップの取組はもちろんのこと、施設・事業所に関わってくれる住民を増やし、地域との身近な関係づくりを構築していくことが必要です。

今号では、地域交流活動を通じて地域との関係の基盤を築いている事例を紹介します。

地域住民との身近な関係づくり及び地域人材の確保の視点

● 身近な関係づくりの視点

- サービスの質向上
- 地域の行事への参加
- 施設機能の開放
- 地域団体とのつながり など

● 地域人材の確保の視点

- 地域住民にとって有効な雇用先になる
- 多世代・未経験者の人材確保の可能性へ繋げる (介護助手や短時間勤務等) など



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

令和6年度

商品パンフレットはコチラから (ふくしの保険ホームページ)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類	プラン	令和6年度	
		基本プラン	天災・地震補償プラン
死亡保険金		1,040万円	
後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
入院保険金日額		6,500円	
手術	入院中の手術	65,000円	
	外来の手術	32,500円	
通院保険金日額		4,000円	
特定感染症	補償開始日から補償(※)		
地震・噴火・津波による死傷		X	O
賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



※特定感染症についても10日間の免責期間がなく、補償開始日から補償対象となります。なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合権

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) (傷害保険) (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(引受幹事) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667
受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

(S)23 11315より抜粋

事業所マイページ登録

福祉のお仕事

01 福祉のお仕事にアクセスして「求人事業所の方」を押します。

02 ご利用案内を確認して事業所マイページを作成する方は「新規登録」を押します。

www.fukushi-work.jp

求人事業所の方



新規登録

ご利用案内



高知県福祉人材センターを利用すると...

- ✓ 事業所詳細情報を使って求人が無い時も施設をアピールできます!
- ✓ 24時間求人票の申請ができます!
※掲載についてはセンター・バンク職員の承認後になります。
- ✓ 求人票を一度入力すると次回からは「再利用申請」でラクラク申請が可能!



操作方法や詳細についての問い合わせは

高知県社会福祉協議会・高知県福祉人材センター

〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ1階
窓口時間 平日(月-金)9:00~17:00

TEL 088(844)3511 FAX 088(821)6765

HP https://www.fukushi-jinzai.com/



高知県福祉人材センター
フクシでグッジョブHP

『施設・事業所と地域とのつながり』の事例紹介



社会福祉法人愛成会

障害者支援施設
白ゆり

開設：1975年 事業所地域：香美市



事務局次長
中里 逸人さん

『地域貢献・地域交流』の取組への きっかけは法人の理念から

以前は地域との関わりがほとんどなく、地域住民にとって
も施設内部や利用者について、十分な理解が進んでいない
状況でした。

しかし、法人の理念として掲げている利用者の「自立と社会
参加を目指した支援」は施設内部での活動、支援では限
界があり、利用者の活動範囲を施設外へと広げていきたいと
考えるようになりました。

また、2000年の社会福祉法改正により、地域での福祉活
動へ目が向けられるようになったことで、『地域貢献・地域交
流』を考え、活動を行うようになりました。

地域交流が広がった「白ゆりまつり」

白ゆりまつりは当初、利用者と職員が夏祭りの雰囲気を楽し
むための施設内行事として行っていました。この行事を地
域交流のきっかけにできないかと考え、始まったのが現在の
白ゆりまつりです。

最初は、職員が余興でやっていたことを知り合いや地元の
舞踊サークルへ依頼し、参加してもらうことから始めました。
そして、少しずつ商工会や地元団体へ飲食等の出店依頼を
行いました。出店数が増えてくると、設営等のスタッフとして
専門学校生や地域の高校生、またボランティアへ広く呼び掛
けるようになりました。

このように、一団体二団体…と関わる人を徐々に増やして
いくことができ、皆で作りに上げていく祭りへ変化していきまし
た。最終的に、来場者含め500人程度の規模の祭りとなりまし
た。現在は、新型コロナウイルスの関係で開催できていま
せんが、地域住民から再開を望む声もあります。また、祭りを
通して利用者に関わり、施設内部を知ってもらうことで、知的
障害に対するイメージがプラスへ変化したという声も聞いて
います。



ポイントは「多くの人との交流」と 「利用者の参加」

地域交流を行ううえで、とにかく一人でも多くの人を巻き
込むことを重視しています。活動に必要な人だけでなく多数
の人を巻き込んでいくことで、白ゆりと当該団体との一対一
の交流だけでなく、その交流を利用する形で普段関わること
がない地域の人達との交流ができる場になる事を意識して
います。

地域貢献としては、特に人材派遣のところを言うと利用者
ができることを前面に出すようにし、職員は後方支援としてサ
ポートするようにしています。例えば、香美市の祭りである土
佐山田まつりへは毎年利用者が清掃スタッフとして参加して
います。利用者が地域活動に参加することで、地域住民は利
用者や施設の事を知るきっかけとなり、利用者は主催スタッ
フや地域住民からの感謝の言葉を聞くことで良い影響へと
つながっています。

継続、そして更なる関係づくりを

施設・事業所、利用者を知ってもらうための活動に終わり
はありません。利用者や施設を地域住民に知ってもらい、地
域の施設として存続するためには、半永久的なテーマとして
常に意識し、ぶれずにやっていくことが大事だと思っています。
今まで、地域交流・地域貢献のための重要な位置づけとし
て白ゆりまつりを開催してきましたが、これからは別の視点
から、地域と更なる関係づくりを模索していく必要があると
考えています。その一つとして、日中使っていない公用車を移
動困難者の支援に使用できるようにしたり、施設内の使用し
ていない食堂を子ども食堂として活用したりと施設の有効活
用を視野に入れていきます。そうすることで、特別な行事を通
してではなく、日常的に自然と子どもから大人までが集える場
所にしていきたいと考えています。

人材確保の視点として、例えば学生時代にイベントのボラ
ンティアとして参加した学生が、白ゆりの利用者や職員の関
係性を見て魅力を感じ就職につながった等、施設外部との
つながり、施設を知ってもらうための基盤は着実に構築でき
ています。白ゆりまつりはここ数年開催できていませんが、今
後またコロナ禍のような状況になっても、せっかくできた地
域との関係性を絶たないために「アフター〇〇」を見据
えた取組を考えることが大切だと思っています。



社会福祉法人和香会

ケアハウス
白山荘

開設：2000年 事業所地域：南国市



理事長
植村 芳明さん

統括主任・介護
支援専門員兼務
土居 由佳さん

東日本大震災から始まった地域との交流

当時、この地域に社会福祉施設はなく、地域における社会
福祉施設の必要性を感じ、2000年にケアハウスを設立しま
した。

施設が出来た当初から地域に根差した活動を考えており、
地域の祭りに参加したり、介護相談ができるといった広報を
行ったりもしましたが、新規法人・施設ということもあり、すぐ
には地域住民に受け入れてもらうことができませんでした。

地域との関係性が変わり始めたのは、2011年の東日本大
震災が発生した時です。高知県でも津波警報が発令され、そ
の夜南国市は避難勧告が発令されました。その際に避難先
として、白山荘へ受け入れの打診があり、地域住民の役に立
てるなら、との思いから受け入れを行うことにしました。当
時、120人程が避難して来ましたが、災害への備えが十分で
はなかったため、備品の提供等ができず、避難住民と施設利
用者が同じ空間で、寄り添う状態で朝を迎えました。

この経験をきっかけに、近い将来起こる可能性がある南海
トラフ地震への備えの必要性や避難場所としての役割につ
いて考えるようになりました。同時に、災害時にこの地域に救
助が来るまでの間、地域の社会福祉施設である自分達が地
域住民の砦となり、地域と共に生き残る施設を目指すきっか
けになりました。

防災訓練をきっかけに 地域との交流が活発化

災害時に地域住民との助け合いができるように、年に数
回施設内だけでなく、地域住民と共に防災訓練を行っていま
す。現在、白山荘には「地域全員で生き残る」という思いから
施設職員と利用者の分だけでなく、地域住民の分の災害時
の備蓄があります。

施設には身体が不自由な利用者もいるので、全員で生き
残るため、地域住民と利用者と共に避難ができるよう、施設



2階から3階へ利用者と共に避難するといった訓練も行って
います。毎年こういった訓練を続けるうちに、今ではただの地
域住民とその避難先、といった関係性ではなく、一緒に逃げる
という強い思いができています。

地域活動を通じた職員の やりがいづくりや雇用

法人設立当初から「地域の福祉拠点」を目指して活動して
きました。通常業務に加え地域活動を行うことは簡単ではあ
りませんが、現在では地域活動を通して地域と共に生き残る
という精神が職員全体に浸透しています。また、施設の顔とし
て責任を持って地域との橋渡しをできる部分は職員のやり
がいへと繋がっています。

実際に地域とのつながりから雇用に繋がった実感がある
わけではありませんが、現在東日本大震災の際の避難者が
職員として働いている例もあります。避難時に施設の事を
知った事もきっかけの一つとなっているのではないかと思います。

また、福祉の出前授業で関わった子どもが職場体験で施
設に来たことや、保育園の行事で関わった子どもが小学生に
なった際に白山荘の仕事を知りたいと来てくれたことがあり
ます。こういった関わりがあり施設を知っているからこそ興味
を持ってくれる子がいるのかもしれない。

誰もが気軽に訪れる施設へ

地域の窓口として、民生委員等と協力をしながら、地域の
困りごとの解決に携わっていきたく思います。また、利用者
だけでなく、誰もが気軽に訪れることができる施設を目指し、
何か困った時には気軽に白山荘を訪ねてみようと思えるよう
な地域の支えになる関係性を継続していきたく考えていま
す。

こうした活動を続けることで地域住民と顔の見える関係に
なることで新たな関係の構築や活動へとつながっていると感
じています。例えば、高知大学の学生が行う地域活動への参
加や小学校や高校への出前授業といった活動ができるよう
になりました。地域活動の積み重ねにより、施設や職員、利
用者を知ってもらうことができていると、今後は、より若い世
代と関わっていくことで中長期的な人材確保に繋がっていき
たいです。